

学校・家庭・地域の連携・協力によるしし踊りの伝承活動
岩手県遠野市立上郷中学校

学校の概要

学校規模

学級数：4学級

生徒数：100人

教職員数：14名

体験活動の観点から見た学校環境

「民話のふるさと」で全国的に知られる遠野市は、岩手県の東南部にあり、人口約28,000人の自然豊かな田園都市である。遠野市主催の「遠野まつり」は、市内各町の郷土芸能を交流する機会となっている。

学校は、JR釜石線上郷駅の近くであり、体育館を含め瓦葺の木造校舎である。昭和57年には「上郷しし踊り」が、昭和63年には校舎新築記念として「上中太鼓」が創られ、継承されている。

上郷地区はかつて最大五千人ほどの人口があったが、現在は約三千人と減少している。このため、伝承芸能の継承者が減少していることから、後継者養成が求められている。

遠野市教育委員会から研究開発実践校として指定を受けた環境教育に関する研究（平成10～12年度）において、「地域や人とのふれあいを大切にした体験的な活動」を重点にして、研究を進めた。

連絡先

〒028-0776

岩手県遠野市上郷町板沢11地割

6番地6

電話：0198-65-2033

FAX：0198-65-2033

電子メール：kamichyu@tonotv.com

体験活動の概要

活動のねらい

家庭や地域社会と連携し、しし踊りの伝承活動による体験活動を通して、豊かな人間性の育成を図るとともに、自ら学び、自ら考える力など生きる力を育む。

郷土の伝承芸能を身に付けることにより郷土の文化を大切にするとともに、地域行事等へ積極的に働きかけができる生徒の育成を目指す。

主な活動内容

教育課程に位置付けた教育活動

生徒による小道具の製作活動

全生徒による練習と体育祭での発表

全生徒による「遠野まつり」での発表

保護者を集めての衣装の着付け教室

体制等の工夫

保・小・中の一貫した取り組み

「上郷しし踊り保存会」による指導・支援（踊り指導、衣装指導、笛指導等）

中学校教職員の指導・支援体制

家庭（保護者）との円滑な連携・協力（着付け教室、衣装準備、行事の世話）

行政による支援

・地区センターからの全面的な運営支援

・豊かな心を育む教育推進事業

活動の成果等

伝承活動に全校生徒で取り組むことにより、望ましい姿が見られるようになった。

郷土の文化を大切にすることを学んだ。
地域の伝承活動が活性化した。

県や市の発表会等に積極的に参加した。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

ア 家庭や地域社会と連携し、しし踊りの伝承活動による様々な体験活動を通して、豊かな人間性の育成を図るとともに、自ら学び、自ら考える力など生きる力を育む。

イ 郷土の伝承芸能を身に付けることにより、郷土の文化を大切にするとともに、地域行事等へ積極的に働きかけができる生徒の育成を目指す。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「豊かな心を育むしし踊りの伝承活動」

イ 実施学年

全学年

ウ 活動内容及び実施時期、活動場所等

表 - 1

行事	時期	活動項目	時間	活動内容	位置付け	活動場所	
体育祭	5月	準備活動	衣装・整理	1時間	衣装道具の整理整頓	総合的な学習の時間	校舎内
			修繕・製作	3時間	しし頭修理, 小道具の製作等	総合的な学習の時間	校舎内
			講習会	2時間	着付け教室(保護者と生徒)	総合的な学習の時間	校舎内
		練習活動	3時間	しし踊りの練習, 笛の練習	学校裁量	校庭	
		発表活動	1時間	体育祭で地域の人々に披露	特別活動	校庭	
遠野まつり	9月	準備活動	衣装・整理	1時間	衣装合わせ, 衣装道具の確認	総合的な学習の時間	校舎内
			修理・製作	3時間	道具の修理・修繕, 製作	総合的な学習の時間	校舎内
			講習会	2時間	わらじの履き方講習会	総合的な学習の時間	校舎内
		練習活動	3時間	しし踊りの練習, 笛の練習	学校裁量	校庭	
		全校発表	1日	出発式 練り歩きながらの踊り, 「遠野まつり」パレードで披露	特別活動	遠野町内	
		自主発表	1日	各地区における自主活動(敬老の日)	教育課程外	遠野町内	

エ 教育課程上の位置付け

表 - 1 のように、生徒の伝承活動に係わる諸活動を教育課程に位置付けている。

(ア) 衣装整理，しし頭修理・修繕，小道具の製作：総合的な学習の時間

(イ) 体育祭の練習，「遠野まつり」の練習：ゆとりの時間

(ウ) 体育祭，「遠野まつり」：学校行事

(エ) わらじの履き方講習会：課外活動の時間

(オ) 衣装の着付け教室：保護者に合わせて 19：00 から 20：30 頃まで開催

2 活動の実際

(1) 事前指導

ア 伝承活動のきっかけ

昭和 57 年度の初め，上郷町内 4 地区のしし踊り保存会では，町内の人口減により後継者養成の見通しが難しく，学校でもしし踊りを取り上げてほしいという願いをもっていた。

上郷中学校ではこうした地域の願いを受け止め，取り組むことにし，同年の上郷町地域づくり連絡協議会において地域の方々の賛同を得た。

そして，同じ年に，「上郷しし踊り保存会」が結成されて指導體制と配置が決まり，これを受けて，中学校の全生徒が取り組むしし踊りの伝承活動が本格的に始動した。

当初は，4 地区の踊りをどのようにして一つのものに作りあげるか，指導體制をどうするか，衣装や道具をどうそろえるかなどの問題が山積していた。

しかし，学校，家庭，地域の粘り強い連携・協力によって，これらの問題を一つ一つ解決していった。

イ 伝承活動の広がり

学校を中心に始まった伝承活動は，こうして，体育祭，「上郷まつり」，「遠野まつり」等での活動の機会をつくり，現在の活動の原型ができ上がった。

その後，「上郷しし踊り保存会」は，中学校での成功を機に，上郷保育園，上郷小学校においても「上郷しし踊り」伝承活動の導入に協力し，現在の保育園から小学校，中学校，一貫した伝承体制が確立できた。

このことにより，上郷町の幼児，児童生徒の全員がしし踊りを踊れるようになり，中学校を卒業した後も継承者として活躍するようになった。

(2) 活動の展開

ア 体育祭での伝承活動

活動に当たって，「上郷しし踊り保存会」(伝承指導団体)，「上郷小学校」と「上郷中学校」(学校)，「上郷地区センター」(行政)の会議が開かれる。

具体的には，学校から示された体育祭の日程の確認，これに向けた指導日程，指導者の配置，運営計画，準備物の確認等について協議する。

学校は，保護者に向けて学年毎に衣装の着付け教室を開催する。また，総合的な学習の時間にしし踊り保存会の指導のもとで，衣装の整理，しし頭の修理・修繕，小道具を製作する。

さらに，学校では，しし踊りの練習を行う。練習は保存会と全職員が指導を行い，踊りの練習や笛の練習(1日あたり1時間×3日間=3時間)を行う。

最初の日には，校長と保存会会長が「上郷しし踊り」の由来や，この活動の意義を説明してスタートする。

冬休みを中心に笛の練習をしていた音楽部は、この時が通し練習となり、保存会と合流する。

2日目には、1日目の踊りの練習の修正を行い、最終日の3日目は、本番を想定した隊形での練習をして総仕上げとなる。

体育祭当日は、保護者が生徒の着付けを行い、しし踊りを披露する。

イ 「遠野まつり」での伝承活動

「遠野まつり」の会議は、地区センターが主催して行う。構成員は体育祭と同じである。この協議を受け、学校は、しし頭の修理・修繕やわらじ履き方講習会等を開催する。練習は、体育祭と同様に3日間実施する。生徒は、「遠野まつり」が始まるまでの間、保存会の指導のもとで、それぞれの地区の踊りの練習を続ける。

「遠野まつり」当日は、河川敷で出発式を行い、その後、遠野町内を練り歩き指定された場所で踊りを繰り返す。そして、「遠野まつり」の最大のイベントであるパレードに参加することになる。

全校生徒、全教職員、しし踊り保存会が隊形を組み、華やかで勇壮なしし踊りを舞う。

なお、2日目の敬老の日には、小学生と中学生が自主活動として、地区での伝承活動に参加する。

(3) 事後指導

ア 校長は、地域の伝承芸能の大切さや全校生徒で取り組むことの意義を伝えるとともに、生徒の活動を評価し、認め励ます。

イ 各学級では、生徒がこれまでの伝承活動を自己評価するようにし、地区での伝承活動の活発化を促すとともに、学校における学習や生活に生かす。

ウ 地域活動における参加を奨励するとともに、中学生がリーダーとなって積極的に役割を担うよう指導する。

3 体験活動のための体制

(1) 学校、家庭、地域との連携・協力体制



講師に学ぶしし頭の学習



上郷しし踊りの華麗な舞



保存会の方々の笛太鼓

機関・団体等 ()内は数		体育祭(運動会)			遠野まつり			地区活動
		会議	練習	当日	会議	練習	当日	
学校等	保育園 (1)	共催	運営	運営	参加	指導	運営	参加奨励
	小学校 (1)	共催	運営	運営	地区活動として参加			参加奨励
	中学校 (1)	共催	運営	運営	参加	指導	運営	衣装貸し出し 参加奨励
団体	上郷しし踊り保存会	主催	指導	指導	調整	指導	指導	運営, 調整, 指導
	地区組織 (4)	参加	指導	指導	参加	指導	指導	運営, 調整, 指導
行政	地区センター (1)	調整	調整	参加	主催	調整	参加	連絡調整
<p>* 運動会・体育祭の期日：小・中学校，保育園により異なるが，準備のための会議は同日に開催する。</p> <p>* 保護者との連携：中学校は，保護者を集めて衣装の着付け教室を行ったり，当日保護者が衣装合わせをしたり，準備・世話活動を行っている。</p> <p>* 地区センター：「遠野まつり」でのバス輸送，半てんや飲み物の準備等を担当する。</p>								

(2) 安全確保のための配慮事項

ア 修繕，製作等では，道具使用に伴う危険が予想されるので，担任としし踊り保存会員が協力して，安全に配慮して指導する。

イ 「遠野まつり」において，しし頭をつけると視野が極端に狭くなるので，全教職員が誘導及び交通安全指導を行う。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 全校生徒が，伝承活動に係わるさまざまな体験活動（衣装の確認，刀，羽根，しし頭の修理，衣装の着付け教室，泥の木かんがらの補修，わらじの履き方講習会，しし踊りの練習，隊形の練習）に取り組むことを通じて，次のような望ましい姿が見られるようになった。

- ・ 自らの課題に主体的，計画的，継続的に取り組もうとする姿勢
- ・ 正しい判断力をもって，自らを律しようとする姿勢
- ・ 自らのよさに磨きをかけ，豊かに表現しようとする姿勢

イ 生徒は，伝承活動を通して地域に対する理解が深まり，学年が進むにつれてこの活動に誇りをもつようになり，地域の一員として自覚ある態度や行動が見られるようになった。

ウ 保存会の協力のもと，保育園，小学校，中学校及び保護者が一丸となって伝承活動を推進したことで，生徒は自分たちの地域を考えるようになり，卒業後も地区で活動をしたり，県内外で伝承芸能発表会や交流会に積極的に参加したりする生徒が見られるようになった。

エ しし踊りの伝承活動が，地域の人々の大きな楽しみとなっている。

— <生徒の感想> 部活動による笛の練習（中学校第3学年・男子） —

これまで、笛を教えてくださった「上郷しし踊り保存会」の笛の先生方や部の顧問の先生に、私はとても感謝しています。

音楽部に所属し、笛に興味をもっていただいた私は、1学年の時に初めて笛を吹きました。

音楽部で本格的に練習したいという部員の声で、冬休みに笛の先生にお世話になり、しし踊りの笛の練習をしました。音はすぐに出たのですが、指を速く動かすことができませんでした。

でも、部の顧問の先生や笛の先生に教えられて、なんとか指を速く動かせるようになりましたが、部活動では足りず、地区保存会に行き勉強しました。

2年生の時は、曲全体の流れがわかるようになりました。同じ曲を何度も聞き、笛の先生の指使いを見て覚えました。

3年生になると、しし踊りの一連の曲を体育祭や「遠野まつり」の本番で、自信をもって笛を吹くことができるようになりました。

後輩はこの冬休みも保存会の方々に教えられながら、一生懸命練習をしていました。

これからもこの伝統を続けてほしいと思います。

(2) 課題

ア 生徒数の減少に伴う活動の低下を補う対策

イ 保護者の参加率を高める工夫

ウ 活動を継続するための経済的支援

5 今後の取組の方向

(1) 伝承活動を更に継続発展させるため、しし踊りの衣装を年次計画で更新し、激しい動きにも耐えられるしし頭を制作していくとともに、地域の若手指導者の育成について支援していく。

(2) これまでの学校行事、ゆとり、放課後の時間としての位置付けを見直し、総合的な学習の時間の趣旨を踏まえた位置付けや時数配分の工夫改善について更に検討していく。

— 【本事例活用に当たっての留意点】 —

本実践は、生徒の生まれ育った地域の伝統芸能である「上郷しし踊り」を後世に伝えたいという地域の願いを受け止め、全校生徒による伝承活動が、20年という長きに渡り取り組まれているものである。中学校だけの活動にとどまることなく、保育園や小学校への活動の広がりは、町全体の幼児、児童生徒の文化を大切に育てる心と、地域への愛着を深める一貫した教育の営みとなっている。また、「しし踊り保存会」に加え、保護者も衣装の着付けにかかわるなど、より多様な人々との触れ合いを企図した協力・指導体制も大いに参考となるところである。

なお、本事例においては、中学生がリーダーとしての役割を担うことができるように工夫されているが、多様な校種や学年に渡る取組においては、その活動の発達段階に応じた発展性についても考慮する必要がある。